平成11年('99)年9月20日
第6号
(題字は名誉会長佐々木省三氏)

早稲田大学
武蔵野稲門会報

発行　武蔵野稲門会
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-20-1
永谷シティプラザ806
電話 0422-21-9961

早稲田大学の健全なる発展を

相談役　田中　雄一

このたび、前田会長より「武蔵野稲門会報」に一文を書くようにとの御依頼があったので、普段思っていることの中から二つのことを記したいと思う。

その前に一言。実はこの春、私の卒業以来五十五年振りに孫が早稲田の法学部に入学致し、早稲田とのただならぬ深き御縁を厳粛な気持で受け止めている次第である。

さて、この数年来一部マスコミの間に早稲田批判の記事を目にするようになり、世上必ずしも評判が良いとは言えないようである。元来、早稲田というのは広く国民各層に人気があり、支持者も全国津々浦々に及んでいたと申しても過言ではなかった。それが最近様子が変って来たように思える。

平成九年十月二十日の産経新聞に「極左組織との決別狙う大学、『早稲田祭』で激突」という記事が載り、「早稲田祭」の開催をめぐる極左組織との対立が初めて世間に明らかにされた。極左組織との問題については奥島総長が、「早稲田学報」（平成八年一月十五日発行）の年頭所感にて異常な決意で「暴力に屈することなく大学の改革をしなければならぬ」と力説され、断乎たる姿勢を明らかにされた。爾来、同総長は大学の健全化に身を挺しておられ、私はその勇気に尊敬の念を抱き且つ心から声援を送っているのである。又、奥島総長を助けこの問題に身を捧げて奮闘している方に法学部教授で学生部長の石川正興先生がおられる。石川教授については平成九年十月十五日発行の「早稲田学報」を読めば、同教授の極左組織に対処する美事とも言うべき勝れた見識と手腕を知ることが出来て力強い。同教授も異常な覚悟で対処しておられるに違いない。大学当局は守ってあげているのだろうか。尚、その後平成九年十二月十五日発行の「早稲田学報」にも同教授の「『十月三十一日、十一月一日』」に関するご報告」と題する大論文が掲載されており、石川教授が極左組織対策に挺身され且つ勝れた手腕力量を発揮されていることに改めて感銘を覚える。

そもそも今日なお、極左勢力の影響に悩まされている大学が他にあるのだろうか。早稲田も一日も早く正常化、健全化を一層進め、私学の雄として我国教育の中核とならなければならないと思うのである。我々稲門会の者も御恩を受けた者として早稲田大学の為に、奥島総長、石川正興学生部長及び同憂の諸先生方を組織を挙げて御支援申し上げるべきと思っている。

次は、平野正紀さんのことである。

平野さんは武蔵野稲門会を設立した方である。又、私に「愛校心」というものを身を以て御教示下さった方でもある。

大体人というものは長ずるに従って感激が薄れてくるもので、特に働き盛りの頃には、正直に申して大学の同窓会などというものにはさしたる関心はないのが普通ではないだろうか。私もまだそんな人種の一人であった頃、あれは昭和五十何年だっただろうか、或る日「平野」と名乗る人が自転車でふらっと訪ずれて来られ、「自分は昭和十二年に早稲田を出た者だが今度武蔵野市に稲門会を作ろうと思うので協力して欲しい」ということであった。勿論断わる話ではないので賛意は表したが特に張り切るというわけでなかった。その後しばしば訪ずれて来られるようになり、そのつど協力者獲得の

状況を、四方山話や戦前戦争中の思い出話等と折り混ぜながら話して行かれた。話が弾み暗くなることも珍しくなかった。

そのうちに賛同した者達が平野さんを中心に、先づは親睦を兼ねて準備を進める為に寄り合いを持つようになった。初めはうなぎやの二階であったり、氷雨降る夜の玉川上水沿いの暗い喫茶店であったりとささやかながら然し心の通った温かい集りだった。今になるとそんな会合程懐しい思いがする。そんな歩みのうちに昭和五十八年の第一回総会を迎えた次第だが、その後も平野さんの自転車行脚は続けられた。私はその後ろ姿に心を打たれたのだが、更に深く感銘したのは、常に口をついて出る「早稲田の人は皆さんいい人ばっかりですね」という言葉であった。私は平野さんのペダルを踏む姿と此の一言に「愛校心」とは何かということを学び取ったという思いがしている。私の心に迷いなく明々と「愛校心」が点った。

平野さんは私にとって人生の師であり恩人である。

その平野さんも平成十年十一月十日八十五才で此の世を去られた。十三日の葬儀には前田会長も参列され名文の弔詞を捧げられた。

平野さんは立派な人生を歩まれた方である。

最後にもう一度我が早稲田大学の健全なる発展と益々の隆盛を祈りつつ、「早稲田頑張れ」と叫んで筆を擱く。

第四回武蔵野稲門会ゴルフ会報告

福原　弘

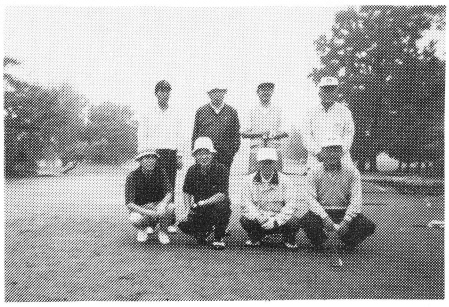
第四回武蔵野稲門会ゴルフは、平成10年10月14日浦和ゴルフクラブで行われました。午前10時スタート、参加者は8名でした。浦和ゴルフクラブはフラットで、雑木林と松林でセパレートされており、林間コースとしての趣の深いコースです。当日はあいにくの雨もようの中でのプレーでしたが、稲門同士ということで、和気あいあいと一日楽しくプレーすることができました。

私は、小美濃さん、沖島さん、渡辺さんと一緒にプレーさせていただきました。小美濃さんは、ゴルフを始めてから年数が浅いにも拘らず、稲門会の事務局で見せるあの粘り強さを練習に生かし、お年（？）にしては、まずまずのスコアだと思います。渡辺さんは、稲門会ゴルフへの思い入れが強すぎるためか、今回も実力を発揮できず不本意な成績でした。若手成長株と目されている沖島さん（3位）は、アウト53、イン51というスコアでした。しかし、この50台の壁を破るのが一苦労です。次回は是非とも40台を出してほしいものです。

一緒に回ることのできなかった方々で、轟さん（2位）は、悪天候にも拘らず、まずまずの成績ではなかったでしょうか。また、高木さん、千田さんは、お二人とも手堅いゴルフとお聞きしました。次回は、一緒に回らせてもらいたいと思っております。過去、優勝したこともある滝本さんは、今回はブービーメーカーと不本意な成績でした。次回に期待したいと思います。

最後に、小生ですが、新ペリア方式ということで、たまたま隠しホールでたたき、幸運にも優勝することができました。しかし、スコアはアウト49、イン45で不満が残ります。次回は是非とも40台前半を出したいと思っております。

武蔵野稲門会ゴルフは、ゴルフの後の懇親会でまた更に楽しくもり上がります。今回は滝本さんのところにおじゃまして、カラオケで夜のふけるのも忘れてうたいまくりました。



カラオケ同好会の報告

堀　裕一

平成10年10月14日、カラオケ同好会として初めてのイベント「カラオケパーティー」を企画実行しました。

稲門会幹事滝本尚男さんのご好意により、夕方午後6時30分から、滝本さん経営の（但しあくまで副業です）武蔵境北口の豪華カラオケスペース「フリージア」にて、別稿のゴルフ組8名を加え、総勢16名の参加を得て開催しました。

ゴルフ組の到着が遅れスタートが30分ほどずれ込みましたが、さすがに日頃歌いなれている方々ばかりのためか、或いは人格ができているためか、ゴルフ組の成績発表及び表彰以外は何のスケジュールもなく、また進行役もいないにもかかわらず、てんでにしかしマイクを奪い合って喧嘩になることもなく（ちなみに私はカラオケが原因で法律事務所が分裂した実例を知っています）、他人の暖かいあるいは冷ややかな視線を無視し、各々自分だけの世界に耽溺したのでした。ああカラオケとはなんとエゴイスティックなものなのでしょう。深夜まで武蔵境に美声が響いていました。

参加者は、ゴルフ組を除き以下の通りであり、この方々はひたすらカラオケのためだけに出席されたのど自慢達です。

高橋清（S31教育）、辻本謙市（S32商）、小坂強（S36商）、江口恵賀（S37商）、寺尾昌美（S37法）、近藤三枝子（S45他大）、山下倫一（S46商）、堀裕一（S55法）。

○成果：初回として懇親の実が十分に上がった。会費3000円で十分な飲食が可能だった（但し滝本さんの好意のおかげ）。

△今後の課題：カラオケだけのために集まると言うのは結構厳しい。今回はゴルフ同好会とのジョイント企画だったが、今後も何らかの仕掛けが必要。但し参加者が多すぎると十分に歌えずフラストレーションが溜まる。この兼合いが難しい。

正直、歌が下手な私が何で幹事なの？と思いますが、これも何かの縁でしょうか。皆様のご協力をお願いします。

教育の原点・家庭教育を考える

古賀　あつ子

我が家の塀は低い。塀の内側に居た私に、笑みを浮かべ、自転車を降りながら「古賀さんですか」と、話しかけてきた方がいた。

柔和なお顔に引き付けられるように、私も思わずニッコリしながら「はい、そうです」と答えた。昨年亡くなられた平野正紀第二代会長との出会いの瞬間である。

以後、誘われるままに、稲門会にかかわらせていただいている。当時は、私自身丁度四十歳。人生の折り返し点に立ち、第二の人生を歩む為、聴講という形で日本女子大の大学院等で勉強をはじめ出した時だった。

逆子出産で仮死となり、思いがけず重度の脳障害を負ってしまった第二子が国立秩父学園に入園し、私は、私自身の為に使える時間を持てるようになったのである。

△障害児教育が教えてくれたもの

弁当持参で毎日子供と共に市の言語学級に通った五年間で得たものは大きかった。教育の原点を教えられたからである。

子供は乳幼児期が大切。この頃に、子供が安心できる基地をつくっておいてあげると、子供は不思議な力を発揮し、その子のもつ能力を開花させていく。過剰な刺激を与えなくてもいいよ、というものである。

安心できる基地とは、仲の良い両親がいる安心できる家庭で、愛情深く育てられるということである。こうして、心伸びやかに育てられれば、自ら興味を示し、教えたことの吸収も早い。人を恐れず、かわいがられ、毎日を楽しく過ごすので、未来への不安はない。

反対に、心が暗く沈んだ毎日では興味を持つどころではなく、言われるままに動き、未来への展望どころか人と接触するのが恐ろしく、人生は重荷と苦痛に満ちたものとなる。

「教育は、一〇〇点を取ることでも進学校へ入ることでもない。生きる希望を持たせることだ」と話すと誰もが頷く。しかし、我が子のこととなると、点数がちらつき急ぎ立てられるように反対のことをしてしまう。カウンセラーとして不登校、非行、無気力などの子供とつきあっていると、結局そこに行き着くのだ。

☆家庭教育は親の責任

情感や宗教心（特定の宗教でなくても一般的な神への概念）が育ち、情緒が発達するのは三～五、六歳である。この時期の家庭教育は、その子の人格形成上大切だ。

伸び伸び育てるということは、親の責任と義務を放棄していいということではない。この時期必要な家庭教育には、道徳教育、情操教育、躾教育の三点があると思っている。

物事を正しく見る目と、正しく判断する力を育てるのが道徳教育であり、やさしさ、思いやり、感謝の心を育てるのが情操教育であり、大人になった時社会人として恥かしくないマナーを身につけ、他人に迷惑をかけない公共心を育てるのが躾教育である。

どれを取っても、親がどう生きてきたか、どう生きたいのかが問われるが、愛情プラスこの三点をきちんと教えられた子に、いじめる子や、援助交際で売春をするような子は生まれないと言える。

☆意見を言える子に育てる

幼児から大人まで日本人にとって苦手なことの一つに、自分の意志を表現することがある。小さい時から言われた通りにするよう躾けられているからだ。

いくら知識が豊富でも、自分の頭で考え、判断したことを、自分の意見として言える子でなければ国際社会ではやっていけない。十数年前、西ドイツ（当時）で躾調査をした時つくづく感じたことであった。

同じ頃、理工科の四年生の進路を決めるのに三者面談がある為上京してきたという母親に偶然会い、あまりの違いに絶句したことがある。意見を言えるということは自分で考える力がなければできない。丸暗記では、自分の意見を言える子には育たない。

きちんと話が出来る子に育てるにはまず両親が楽しいこと大変なことを話し合う場面を子どもに見せてほしい。家庭内での会話を絶やさないことである。そして、小さい頃から話しを聞き、時には意見を聞いてほしいと思う。家庭教育が、その子を伸ばすかどうかにかかっているのだ。

「ボランティア活動に参加して」

副会長　杉崎完夫

武蔵野市国際交流協会のボランティア活動に参加しているが、ここで少し紹介させて頂きたい。昨今七十歳を過ぎてくると、物忘れや気配りなどに衰えが見え始めたのを感じてくる。そこで対策として孫のおもりをするよりも何か少しでも地域のために役に立つことはないかと探していたところ、愚妻から少し努力をして外国人に日本語を教えてはどうかと云われ、外国人日本語教師の専門知識を学習しに行った。偶然にも同時期に武蔵野市で日本語交流員（武蔵野市では日本語教師とは云わない）になるための受講者募集があったので応募した。人数多数のため抽選となり、運よく当選。現代日本語文法、語彙、表記、教授法や異文化研究、外国人に関する各種法律（入管法、医療、教育、ビザ、国際結婚、社会保険等）の基礎知識十三科目を四ヶ月にわたり学習し、終了試験を終って外国人日本語交流員となった。外国人への日本語指導の他に外国人相談ネットワーク活動にも参加して、各種相談会で相談を行っている。

この様な活動を通して地域住民の方々とも知り合うことが出来た。特に稲門会会員では既に活躍されている秋山陽氏（昭18年商）と会うことが出来たし、轟常彌氏（昭30年法）が早くからの交流会員であった事を知る事が出来、感動を覚えた次第である。

役員名簿（幹事会）

（平成十一年8月現在）

	（卒年）	（住所）
名誉会長	佐々木省三　昭11政経	吉・東町
相談役	田中　雄一　昭19政経	中　町
相談役	井上　俊雄　昭24政経	西久保
顧　問	重松　和雄　昭16理工	西久保
顧　問	有田　六郎　昭17商	境南町
会　長	前田　信昭　昭25理工	吉・東町
副会長	杉崎　完夫　昭27商	吉・南町
副会長	山本富士雄　昭34理工	吉・本町
代表幹事	小美濃　隆　昭31法	吉・南町
庶務幹事	福原　弘　昭44法	三鷹市
会計幹事	佐藤　孝一　昭56商	杉並区
会計監査	根岸　俊吉　昭28理工	八幡町
会計監査	轟　常彌　昭30法	西久保
幹　事	秋本　澄子　昭31文	境南町
	江口　恵賀　昭37商	御殿山
	大石　仁　昭51政経	吉・北町
	沖島　祥介　昭51教育	西久保
	唐沢かづ子　昭34文	吉・東町
	菅　伸子　昭45文	吉・本町
	久保田　顕　昭60教育	中　町
	古賀あつ子　昭39教育	中　町
	小坂　強　昭36商	吉・南町
	佐川　素子　昭44教育	吉・本町
	鈴木　昭彦　昭34商	吉・本町
	滝本　尚男　昭38法	境南町
	辻本　謙市　昭32商	吉・北町
	中村　幸子　昭39教育	吉・東町
	中村　誠　昭52商	八幡町
	滑川　洋一　昭34文	吉・北町
	堀　裕一　昭55法	吉・東町
	冨留宮照男　昭24商	吉・東町
	山下　倫一　昭46商	西久保
	渡辺　吉章　昭51理工	吉・本町

同好会へのお誘い

入会ご希望の方、ご意見のある方は左記へお問い合せ下さい。皆さまのご参加をお待ちします。

一、ゴルフ同好会　沖島祥介
☎〇四二二（五二）〇六八〇

二、カラオケ部会　堀　裕一
☎〇四二二（二二）〇六三一

三、旅行・ハイキング・写真部会
冨留宮照男
☎〇四二二（二二）〇四一〇

四、囲碁・将棋・麻雀・ボーリング部会　渡辺吉章
☎〇四二二（二〇）〇二〇四

五、同好会スペシャル（何でも来い会）　小坂　強
☎〇四二二（四七）八四三八

編集後記

たまたま縁あって、東村山稲門会主催の雑学講座で講師を勤めた。その折り、頂いた会報を見てびっくりした。何と月刊なのである。しかも8ページ。また同好会の活動も熱心で、絵画同好会、麻雀同好会、ゴルフ同好会、テニス同好会、インターネット同好会、郷土史の会、園芸の会、ウォーキング同好会と毎月活発に活動し、参加者が平均20名と聞いた。

幹事の数は私共とほぼ同数、会員の数もほぼ同数。しかも会報以外にニュース誌も出している。

「たま」という同好雑誌も創刊されるという。本当にあおられた感じである。

私共も少し褌を締め直して活動しなければと感じた次第。

（山本記）

ご意見募集

第七号以降の編集のため皆さまのお知恵をお寄せ下さい。

FAX
〇四二二（二一）三八八三